

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	樋口 由貴子	職名	助教	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	--------	----	----	----	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・発達障がい児とその家族への支援について考察する。 ・病気や障害をもつ子どものきょうだいへの支援について考察する

担当授業科目
看護学科 小児看護学演習 (前期) 小児看護学概論 (前期) 小児看護学実習 (通年) 小児看護学方法論 (後期) 助産別科 助産診断・ケア学 IV (新生児・乳幼児) (前期) 栄養学科 看護学 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 小児看護学演習 】 <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習をリモート形式で行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。リモート形式であったため、自己学習・質問時間を設定し、学生が講義の時間に、疑問などを解決できるよう工夫した。実技演習では、援助技術の根拠と発達に応じた工夫をすることの重要性について説明し実践することで、学生が技術を習得できるよう援助した。リモート講義のため、DVD や実際にカメラ前で実施するなど視覚的に理解できるよう工夫した。同時に、学生も自宅でできる限り同じ手技を実施できる環境を求めた。手技の確認としては、学生にカメラで自分の手技を映してもらい指導するなどを行った。</p>
授業科目名【 小児看護学概論 】 <p>「各発達段階の特徴と健康生活」の乳幼児期を担当した。正常な子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。リモート形式での講義であったため、学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義を行った。また、講義開始時に前回の講義の内容について小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。</p>
授業科目名【 小児看護学実習 】 <p>新型コロナウイルス感染症流行のため、病院施設の実習受け入れ中止となった。代替として、大学内の BCP に合わせて学内・リモートでの実習とした。実習内容は、教材用 DVD などを用い架空患者を設定。患者役を人形とし、家族・看護師役を教員が行った。病院実習同様のスケジュールとし、病院に類似した電子カルテを作成し目的をもって学生が情報収集できるように工夫した。また、看護技術も可能な限り人形を用い実施した。技術が実習中に比べ実施できない分、教材 DVD や論文などを用い学生と実技についてのディスカッションや技術発表会を行うなどして、学生の技術習得と達成感が得られるよう工夫した。また、</p>

NICUや多職種連携などを自己学習し、カンファレンスでディスカッションすることで、本来病院実習で学習する予定だった小児特有の看護も学習できるよう工夫した。しかし、看護師役が担当領域の教員のみであるため、実習で多くの臨床看護師のケアを見て学ぶなどのモデリング学習の機会を作ることができなかった。今後臨床実習に行けない状況の際は、多くの手技や学生がモデリングできるような看護場面の提供を工夫することが課題である。

授業科目名【 小児看護学方法論 】
「検査・処置を受ける子どもの看護」「急性期にある子どもの看護」の講義を担当した。子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、子どもの理解の仕方を学生が考えることで、検査・処置時における看護の工夫の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。また急性期にある子どもの看護として手術を受ける子どもと家族の援助方法や、急に入院する子どもと家族への心理社会的な影響についてもDVDなどを用い、学生がイメージできるよう講義した。小児医療現場を見たことがない学年の学生も、次年度実習に行くことを意識し、臨床現場や実習のイメージが出来るように工夫した。

授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児) 】
助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)」では、助産師として乳幼児と関わる中で、遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉えることができるよう工夫した。

授業科目名【 看護学 】
栄養学科3年生後期「看護学」では、「子どもの健康と栄養」として、学童期を担当した。栄養士として、学校現場や保育現場などで活用できるよう離乳食やアレルギーなどの子どもの特徴だけでなく具体的な援助方法までを講義と体験を通して習得できるよう工夫した。リモート形式であったため、エピペンの実技では、実演し、学生は自宅にあるボールペンなどをエピペンとみだてて実演してもらい手技が習得できるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		2002年4月(現在に至る)
日本小児看護学会会員		2009年1月(現在に至る)
日本小児保健協会会員		2009年4月(現在に至る)
日本環境感染症学会会員		2010年10月(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2013年6月(現在に至る)

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学共同研究費	○ 笹月桃子 野井未加 文屋典子 山本佳代子 樋口由貴子	1,671,000

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・保健福祉学部1年生および助産別科1年生への感染症予防
／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨（2011年6月～現在に至る）
- ・親子遊びの会（ほほえみの会）（2016年4月～現在に至る）
- ・看護学科2年生アドバイザー（2020年4月～2021年3月）